

第6学年「社会」学習指導案

授業者 片山 元裕

2月14日（金）2階B室 10:00～10:40（話し合い11:00～11:45）

1 題材名 コロナ時代から学ぶ ～全国一斉休校に焦点を当てて～

2 本題材を取り上げた意図と子どもたちのかかわり

2020年1月に日本で初めて新型コロナウイルスが検出されて以来、日本社会はその対応に迫られ、私たち一人ひとりも多大な影響を受けてきた。6年生の子どもたちにとっての小学校生活は、Before コロナ・パンデミック・With コロナ・After コロナという大きな社会的変化の渦に巻き込まれた6年間であり、それに伴い学校の様相も変化し続けてきた。私たちのくらしや価値観に大きな影響を与えたコロナ時代は、私たちにとって最も近い歴史の一部であり、歴史の重要な分岐点であったと言える。

中でも、子どもたちが大きくかかわった出来事と言え、政府からの要請により始まった全国一斉休校である。当時、出来ることは全てすべきだと支持する声や科学的な根拠にもとづいていないと批判する声など賛否があったが、現在において、要請に対する検証が十分になされたとは言い難い。自分たちがかかわる歴史について、〈私〉の経験や記憶、そして、政府、医学、世論、外国の対応、過去の対応など様々な観点から検討し、給食業者や保護者、子どもなど多様な立場の人々から考えることを通して、全国一斉休校という決断について考える。

その際、子どもの権利の視点からも考えていく。全国一斉休校は子どもの生命と生活にかかわる重大な政治的決断であり、子どもたちの権利に深くかかわる決断である。子どもたち一人ひとは権利をもつ主体であり、政治や大人から権利を尊重されるだけでなく、自分たちで自分たちの権利について考え、意見を表明していかなければならない。〈私〉を出発点に考え、他者の〈私〉に気付きながら〈私たち〉の声を政治に届け、より良い未来を作っていこうとすることは、デモクラシーを生きていく中の重要な経験となり得る。〈私たち〉の歴史から学び、〈私たち〉の未来について考えていきたい。

3 学習指導計画（12時間目／全16時間）

1～2時：コロナ時代における〈私〉の経験をふり返し、全国一斉休校の是非について考え話し合う。

3～7時：政治、医師、世論、外国や過去の対応の観点から調べ、全国一斉休校に対する見方を深める。

8時：〈私〉の経験や多様な観点からの検討をもとになぜ全国一斉休校が行われたのか考え話し合う。

9～11時：給食業者や保護者、子どもそれぞれの立場から、全国一斉休校について考え話し合う。

12時（本時）：子どもの権利の視点から全国一斉休校について考え話し合う。

13～15時：未来の緊急事態における休校のあり方について考え話し合い、意見をまとめる。

16時：政府が要請した全国一斉休校に対する自分なりの意見を整理する。

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

子どもの権利の視点から全国一斉休校という要請を検討することを通して、全国一斉休校や子どもの権利についての〈私〉の考えをもち、他者の〈私〉に気付き考えようとする。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○子どもの権利条約の四つの原則を提示し、それぞれの権利について理解する。 ①差別が禁止されていること ②子どもにとってもっとも良いこと ③命を守られ成長できること ④意見を表明し参加できること	・一つひとつの権利の意味を丁寧に確認する。
○本時の問いである「全国一斉休校によって子どもの権利は守られたのか？」について考え、その理由を記述する。全国一斉休校と子どもの権利を関連付けながら考え話し合い、全国一斉休校に対する見方を広げたり、自分たちのもつ権利について考えたりする。	・一人ひとりの考えに対して、みんなで耳を傾け聴く。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

全国一斉休校という決断や子どもの権利について、一人ひとりの子どもが他者の〈私〉に気付き考えられていたか。